

『ステルスオミクロン』

延長された、まん延防止等重点措置も 21 日をもって解除されました。しかし COVID-19 第 6 波は第 5 波までと比べ、感染は爆発的急拡大し、ようやくピークアウトしたように見えても今後の感染者数減少度はゆるやかに見えます。



これは第 6 波の主な原因であるオミクロン株の特性と考えられますが、その主体の亜株がこれまでの BA.1 から BA.2 (いわゆるステルスオミクロン株) に変化しつつあることが関与していると推測されます。

BA.1 もその感染力はデルタ株の約 3 倍ともいわれていましたが、一方比較的重症化するケースは少ないとされていました。これは肺炎に至ることが少ないためと考えられています。しかし患のある人や高齢者が感染すると、肺炎でなくとも基礎疾患が重症化するリスクが問題となっています。

BA.2 も BA.1 と同様、比較的軽症が多いとは考えられていますが、感染力は BA.1 のさらに 1.3 倍程度との報告もあり感染者数が増えれば、重症化率は低くても医療は逼迫してきます。

ワクチン効果についても、オミクロン株によるコロナ発症予防効果は以前の株に比し、低下傾向はあるようですが、重症化予防効果は維持されています。また治療に関しては点滴薬 (抗体カクテル薬など) の有効性は低下するといわれています。経口新薬の有効性は期待されていますが、まだ供給量は十分ではありません。

私たちができることは、結局、従前通り、密を避け、不織布マスク、手指消毒をきっちりすることが感染予防の中心であることには変わりはありません。